

2026年4月12日(日)

日本基督教団 大宮教会

大宮教会ビジョン

「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
(マタイによる福音書28:19~20)

復活節第2主日

朝第1礼拝 9:00~10:00

朝第2礼拝 10:30~11:45

〈神の招き〉

前奏 ① キリストはよみがえり給えり バッハ
② 神の子は凱旋したまえり バッハ

招きの詞 ヨハネによる福音書11:25~26

交読詩編 145:1~13

讃美歌 37

〈神の言葉〉

聖書 創世記2:4b~8
(旧約 聖書協会共同訳 2頁)
ヨハネによる福音書20:19~23
(新約 聖書協会共同訳 205頁)

祈禱
讃美歌 50
説教 「あなたがたに平和があるように」
熊江秀一牧師

祈禱
黙想
讃美歌 323

〈神への応答〉

使徒信条

献金

主の祈り

宣教報告②

頌栄 29

派遣と祝福

後奏 ① 救い主キリストは死に打ち勝ち バッハ
② 聖なるキリストは甦りぬ バッハ

宣教報告①

夕礼拝 18:00~19:00

〈神の招き〉

前奏 キリストの死の絆につき給いしが バッヘルベル
招きの詞 ヨハネによる福音書11:25~26
交読詩編 145:1~13
讃美歌 57

〈神の言葉〉

聖書 イザヤ書55:8~11
(旧約 聖書協会共同訳 1137頁)
ルカによる福音書7:1~10
(新約 聖書協会共同訳 113頁)

祈禱
讃美歌 325
説教 「み言葉への信頼」 佐藤潤伝道師

祈禱
黙想
讃美歌 458

〈神への応答〉

使徒信条

献金

主の祈り

宣教報告

頌栄 25

派遣と祝福

後奏 キリストの死の絆につき給いしが バッヘルベル

今週の御言葉

イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。あなたの手を伸ばして、私の脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」
(ヨハネによる福音書20:26b~27)

次週の礼拝(4月19日) 洗礼式・転入会式

① 9:00、② 10:30
説教 「信じる者になりなさい」
熊江秀一牧師
創世記15:4~6、
ヨハネによる福音書20:24~29
交読詩編23:1~6
讃美歌1、51、329、29

☑ 18:00
説教 「み言葉の力」
佐藤潤伝道師
詩編86:14~17、
ルカによる福音書7:11~17
交読詩編23:1~6
讃美歌60、318、517、25

■今週の祈禱課題■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
3. 新年度の地域会と各部の為に
4. 牧師・伝道師の為に
5. 関東教区の為に
6. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、イラン、世界の平和の為に
7. 病気の兄姉の為に

*関東教区お祈りカレンダー 敬和学園大学 敬和学園高校 共愛学園前橋国際大学

◇先週の説教より「主の復活から始めよう」ヨハネによる福音書20章1～18節、詩編30編2～6節 熊江秀一牧師

イースターから新年度が始まった。イースターからいいスタートを。マグダラのマリアは主の墓の石が取りのけてあるのを発見し、シモン・ペトロと主の愛しておられたもう一人の弟子に伝えた。二人は主の墓に走っていき、まずペトロが墓に入った。そこには亜麻布と覆いが置いてあった。愛弟子も入ると「見て、信じた」。この福音書では「見る」と「信仰」が結びつけられてきた。しかしこの時「聖書の言葉を二人はまだ理解していなかった」。二人はまだ主の復活を理解していなかったが、復活信仰の芽生えが確かにあったと言える。新しい時がすでに始まっている。

しかし復活の主が最初に会われたのはこの二人ではなく、墓の外で泣いていたマグダラのマリアであった。マリアは墓を見つめて泣いていた。それはマリアが死の方向を向き、死の力に支配されて泣いていたということである。

マリアは天使の呼びかけにも応じなかった。しかしそんなマリアを復活の主は見ておられた。そして背後から「マリア」と呼びかけた。死の方向を向いて泣いていたマリアは、復活の主の名前を呼ばれることで、主の方へと向きを変え、「ラボニ」（私の先生）と答えた。復活の主は罪と死の現実の中で嘆き悲しむ私たちの背後から名前を呼んで下さる。そして私たちをご自分の方に向かせ、救いと命と喜びへと導いて下さる。

そして主はマリアを主の復活の証人として弟子の元に遣わす。マリアは復活の主の御言葉を伝えた。この後、マリアは登場しない。出会いは一度だけだったかもしれない。しかしマリアは復活の主を見続けている。信仰によってマリアは主と出会い続けている。

「夕べは涙のうちに過ごしても、朝には喜びの歌がある」（詩編30：6）のである。

*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。*は祈禱当番の方。*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、夕は夕礼拝。